

させば西海菊



日本の最西端に位置し、温暖で日当たりが良い佐世保は「輪菊」「小菊」類の栽培に適しており、標高差を利用して広範囲にわたって栽培されています。

輪菊は通年、小菊は5～11月に旬を迎え、9月9日は旧暦で菊が咲く季節であることから「菊の節句」とも呼ばれています。

菊は葬儀やお墓に供えることが一般的ですが、最近ではカラフルな品種も多く、花束や贈答品としても使われています。市内で生産される菊は「西海の菊」の名で市内をはじめ、関西や岡山、広島などで取引されており、高い評価を得ています。特に平成からは色菊(黄色)を中心に栽培を行うようになり、出荷先の関西・中国地区ではトップレベルの品質を誇っています。

この黄色菊は特に市場からの評価が高く、病害虫防除や使っていただく人のことを考えて使用時期に合わせた採花が心掛けられています。また、独自の肥料を施用するなど、常に高品質な菊の生産が行われています。

さらに、近年の高温でも対応できる品種の選定にも力を入れており、季節に合った品種選びにも注意を払って栽培されています。令和に入り、菊・小菊部会の統合によって菊部会も一新され、お客さまへ仏花として安定した提供ができる体制づくりに取り組んでいます。

主な販売場所 市内のフラワーショップ

JA ながさき西海農業協同組合

させば南部営農経済センター ☎ 39-3310

人の動き(8月1日現在)

- 総人口 244,204人(前月比-175人)  
男性 115,810人(-52人)、女性 128,394人(-123人)
- 世帯数 105,087世帯(前月比 +19世帯)
- 7月中の動き  
転入 606人、転出 692人、出生 172人、死亡 261人

9月19日は「九十九島の日」



昭和30(1955)年に西海国立公園に指定された九十九島は、市民の宝として現在まで大切に守られ、多様な生物のすみかとなり、人々に豊かな恵みをもたらしてきました。そのため本市では、この海域の自然豊かな景観を守り、後世に伝え残していくため、平成11(1999)年9月19日に同日を「九十九島の日」と定め、昨年には記念日(一社)日本記念日協会)にも登録されました。

平成13(2001)年には市民団体「九十九島の数調査研究会」が島の正式な数を208と発表し、調査では国内で4カ所で見つかっていない「トビカズラ」も発見されました。その後も「九十九島の会」や「九十九島調査室」など市民やスタッフの皆さんによって調査・研究が進められ、希少な動植物などの発見につながりました。

そのような調査結果や研究成果は、九十九島水族館海きららでの「九十九島の海」を再現した生き物たちの展示や九十九島ビジターセンターでの九十九島の自然について伝える出前講座などを通して、広く九十九島の魅力を伝える活動につながっています。

このように市民の皆さんに大切に守り愛されてきた九十九島は、平成30(2018)年に「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟認定され、世界の宝になりました。

市民の皆さんには、「九十九島の日」を機に改めて九十九島に対する誇りと愛着を感じていただき、引き続き国内・国外に向けたPRにご協力いただきますようお願いいたします。

観光課 ☎ 24-1111

させば市政だより

- テレビ NBC土曜 9:25～9:30、KTN土曜 11:45～11:50  
NCC土曜 16:25～16:30、NIB日曜 6:30～6:35
- ラジオ FM長崎 火曜 9:05～9:10  
FMさせば 金曜 13:00～13:55  
金曜 16:00～16:55(再放送)  
土・日曜 10:00～10:55(再放送)
- 新聞 長崎新聞 毎月第2・4火曜

市長日記

ますます「島美(島瀬美術センター)」が面白い!!



博物館島瀬美術センターについては、「今、島美がおもしろい!!」というテーマで、平成28年12月号の「市長日記」にそのすごさや面白さを紹介しました。

それから3年以上が経過しましたが、このコロナ禍でも島美がますます進化し、市民の皆さんに素晴らしい企画を提供していますので、紹介したいと思います。

まず「ルーヴル美術館の銅版画展」(7月23日～8月31日開催)です。ルーヴル美術館と言えば世界屈指の美術館で、コレクションは38万点以上といわれています。そのコレクションの保存と記録、学問への活用のため、1797年にコレクションの銅版画を制作し保存する「カルコグラフィー室」が設立されたそうです。本展では17世紀のルイ14世時代から現代までのカルコグラフィー・コレクション約1万3000点の中から、日本特別公開のために刷られたレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」をはじめ、フェルメール、ドガ、レンブラント、ルーベンス、ローランサン、モディリアーニ、藤田<sup>つぐはる</sup>嗣治など著名画家の名作の銅版画約130点が展示されました。

また、7月25日から開催されたのは「コロナに負けるな!! 子ども絵画コンテスト」(「大切な人の命を守る運動」実行委員会主催、8月2日まで)でした。4月の緊急事態宣言で仕事に大きな打撃を受けた市内のイベント企画会社の社長さんが企画したもので、学校休業でステイホームしていた子

どもたちが「コロナに負けるな」をテーマに絵画を描きました。保育所や幼稚園、小学校に応募を呼び掛け、企業や団体、個人に協賛をお願いするなどして実現に至りました。予想以上に集まった絵画からは「佐世保からコロナを出さない」という子どもたちの思いや関係者の皆さんへのエールが込められており、大好評だったそうです。

このようにローカルからグローバルまで充実した企画が実現できたのは、もちろん関係者の協力や熱意によるものが大きいと思いますが、「美術・芸術の世界を市民に親しんでもらい、もっと楽しんでもらいたい」という安田館長の強い信念と情熱があったからこそだと思います。

「島美」はどんどん進化しています。年間展覧会数は平成25年度99本から令和元年度には122本となり、展示室利用率も91.2%と博物館では驚異的な割合となっています。昨年度の入場者数も11万3871人と、平成30年度に続き2年連続で過去最高を記録しました。

ところで、佐世保市の直営である島美は来年4月以降、指定管理者による運営が始まる予定です。島美はさらに自由度を増し、ローカルからグローバルまで素晴らしい企画を市民の皆さんに提供・発信してくれるものと大いに期待しています。

皆さんも進化を続ける島美にどうぞお立ち寄りください。  
佐世保市長 朝長 則男

徳育通信 102

聞いて「徳」する話 63 ツバメのふるさと

今春、我が家に2年ぶりにツバメが戻ってきました。5月24日に最初のひなが誕生し、6月16日に4羽が巣立ちました。巣作りから数えてわずか45日間の出来事でしたが、その間「つかの間の幸せ」を実感することができました。

数千キロも離れた東南アジアから繁殖のために日本にやって来て、天敵から卵やひなを守るため、軒先やスーパー等の防犯カメラなど人の出入りが多い場所で子育てをする。そして自分たちの家族や家を守るために、夫婦で協力して自分たちより大きなカラスに勇猛果敢に空中アタックして追い払う。

昔からツバメを家族のように迎え入れ、わが家で生まれたツバメたちが彼らのふるさとである佐世保に里帰りして、これからも繰り返し子育てをしてくれることを切に願っています。

(匿名希望)



「聞いて徳する話」募集中  
身の回りで見つけた「聞いて「徳」する話」を募集中です。応募用紙は事務局で配布しており、市HPからダウンロードすることもできます。

佐世保徳育推進会議 ☎ 23-2856